



日本人学校派遣教員内定の皆様ならびにご家族の皆様へ

新潟県国際理解教育研究会 会長 佐藤義朗

(1991年度 フィリピン マニラ日本人学校教諭派遣、
2011年度 フランス パリ日本人学校 教頭派遣)

各国の日本人学校への赴任の内定おめでとうございます。

皆様は、海外子女教育に大いなる情熱を抱き、在外教育施設派遣教員の選考に挑まれたことと思います。緊張の面持ちで、県や文科省の選考検査を通過し、派遣が内定した現在、大きな喜びに満ちていることと察します。

在外教育施設で学ぶ子どもたちのために全力を傾けて教育に専念するという強い意志をもって赴任されることを祈念いたします。在外教育施設派遣は、「人生の宝物」の要素もっています。この経験を「宝物」にするかどうかは、皆様次第です。派遣中そして帰国後も「初心貫徹」で是非頑張ってください。

来年度、日本人学校で仕事をされる皆様に本県の派遣教員を中心に構成される新潟県国際理解教育研究会を代表して、アドバイスをさせていただきます。

以下お読みください。

- 1 何よりも「健康」が一番です。心身共に健康な状態で日々教育活動に専念されてください。在外教育施設は、約80%の教員充足率で運営されています。授業料を徴収して運営されているため、私立学校的要素があり、保護者は、「私たちが雇った教員」という意識をもって、様々な要求をしてくる。その結果心身共に疲労しがちになります。規則正しい生活や食事・運動等に十分に配慮し、「仕事のONとOFF」をしっかりと分けて生活してください。また、新型コロナウイルスに対して、自身で行える防止策を徹底して行ってください。
- 2 「危機管理」に努めてください。日本とは、異なる文化、宗教の国に住むこととなります。予想しなかったトラブルに遭遇し、困ることも予想されます。また、派遣教員は、長期の研修出張という扱いで、日本の地方公務員法が適用される身分であることを肝に銘じてください。(例：現地で多少の酒気帯び運転が許されていても、派遣教員は許されません。不祥事や勤務態度が悪いと、翌年以降当該県からの派遣が途絶える場合もあります)
当該国で住まわせてもらっている、仕事をさせてもらっているという謙虚な気持ちで、「郷に入れば、郷に従え」の言葉を大切に生活してください。
- 3 「授業力」をしっかり身に付けてください。子どもたちをはじめ、保護者、理事会の方々の派遣教員に対する期待は、想像以上に高いものがあります。コロナ禍で、リモート授業を行う機会もあると思います。保護者は、授業を見る目もっています。先生方の授業が保護者の共通の話題にもなります。「授業で勝負する教師」として、1時間1時間の授業に全身全霊を傾け、自分で授業を振り返ることで日々改善しながら授業の質を高め、信頼を勝ち得てください。

- 4 周囲と良好な人間関係を築いてください。コミュニケーション力を発揮し、「同僚性」「思いやりの心」もって、周囲の教員や教員家族、そして保護者と厚い信頼関係を築いてください。
最初は、誰を信用してよいかわからなくなる時もあります。自分をしっかりもち、周囲の噂や言動に左右されることなく生活してください。守秘義務をしっかり守り、学校の情報は、絶対に家庭での会話に持ち込まないことが基本です。(学校の情報が漏洩し、大きな問題に発展した事例が数多くあります)
- 5 文科省は、平成29年に在外教育施設の機能強化を図り、教員派遣の「派遣前」「派遣中」そして「帰国後」の魅力を高め、戦略的にグローバル教員を育成する「トビタテ！教員プロジェクト～在外教育施設を活用した戦略的なグローバル教員の育成～」を始動しました。(HPで必ず確認を！)
派遣教員1人に国は、3千万円を税金から出資しています。自分が、何のために当該校に派遣され、帰国後何をしなければならないか「自覚と責任」をもって仕事に励んでください。
外国での生活経験で育成された感性をもった帰国子女は、「金の卵」と言われています。派遣教員も、国際理解教育推進役の「金の卵」です。帰国後、新潟県の子どもたちにグローバルな視点で物事を見る目を育てるという使命を忘れないでください。
- 6 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会(「全海研」)は在外教育施設(日本人学校等)派遣経験者で結成した全国組織で、在外教育施設での教育の支援、国内の国際理解教育の支援などのために活動しています。毎年行われていた文科省の派遣前のオリンピックセンターでの研修会も担当しています。その地方組織である、新潟県国際理解教育研究会は、新潟県の派遣教員の支援を行っています。派遣中、相談事や各種お便り等、遠慮なくメールで寄せてください。(お便りは、本会のHPで紹介させていただきます)

会長 さとう よしろう 佐藤 義朗(メールアドレス: sato00@gmail.com)

最後に、私が2度の派遣で「座右の銘」にしていた2つの言葉を贈ります。

- ・「実ほど、頭を垂れる稲穂かな

実ほど頭を垂れる稲穂かな

(米どころ新潟の教員として、謙虚な姿勢で力を発揮してください)

- ・「生き残る種とは、最も強いものではない。

最も知的なものでもない。

それは、変化に最もよく適応したものである。」

ダーウィン

(予測不可能な様々な課題に、柔軟に対応して行きましょう)